

41 【北摂ニュータウン基本計画の概要】

財団法人都市計画協会「北摂ニュータウン基本計画」昭和45年3月

§2 北摂ニュータウン建設の背景と計画のプロセス

(中略)

3. 計画の変遷

(中略)

以上の位置づけの検討と、県の提示した街路網を基本として北摂ニュータウンのイメージプランが積み重ねられた。

第1次案は、三田の既成市街地と一体化した中心センターを設ける案で、それに関連して鉄道は地区の東側(三田市街地に近いところ)を通す。

第2次案は、北摂ニュータウンで独立した中心センターを設け、北神、三田との連帯を考えない案で、鉄道は地区の中心を通す。

この段階で、県試案による梯型パターンが問題となり、特に区域東側の国道バイパスの実現性が疑問である。また計画開発区域外の農地の市街化を促すおそれがあるため、区域西側の幹線から地区内を縦断する幹線をだす方式の検討を始めた。

第3次案は、これに基づき、地区西側の幹線から2ヵ所で連絡した幹線を計画した。この段階では、まだ中心センターの位置が2通り考えられていたが、三田の既成市街地と一体化する方向は、将来の後背人口の差から言っても当然北摂ニュータウン地区のウエイトが高まり、三田の既成市街地は衰退すると考えられ、少なくとも現在のシェアを確保するためには、北摂ニュータウンの中心センターをなるべくはなした方が望ましいと考えられ、そこで北摂ニュータウンの中心にセンターを設け、三田及び広野はサブセンターとして計画された。

第4次案は、これらの方針に基づき、中心センターを地区のほぼ中心に設け、鉄道は北摂地区のほぼ中央に通す。又、鉄道の建設時期とも関連して、当面広野、三田方面とのバスサービスが必要とされ、地区中央を縦断する幹線から広野、三田との連絡幹線を設けた。

第5次案は、ほぼ第4次案と同様であるが、タウンセンターサービス道路及び住区内幹線の線形が地形との関連で多少変更になった。

ほぼこの時点では、ニュータウンの骨格が定着して来た。

第6次案は、第4・5次案を発展させ、より詳細な検討の結果示された案で、ニュータウン北側の工業団地との関連、サービスインダストリーの配置、各種主要施設の位置がほぼ固まった。

(中略)

4) HOKUSETSU 004

1. 基本方針

1-1 北摂地区(S₁~S₄)を独立した地区と考える。

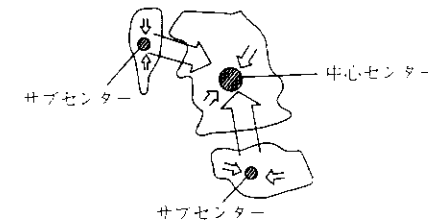
1-2 (1-1)により、北摂独自の中心センターを地区ほぼ中央(S₂+S₃)に設ける。

2. 広域幹線道路と鉄道の位置

2-1 幹線道路は広域的な意味をもっているため、地区周辺を通す。

2-2 鉄道の位置は(1-1、1-2)の理由により、および北摂地区の軸として考えるため、地区内のほぼ中央を通す。

3. センターの位置



4. 住区内幹線道路の考え方

(中略)

住区内幹線道路を(S₂+S₃)、S₄ブロックに於てループ状にサービスさせる。幹線道路の性格としてはバス、自動車道の性格をもたせる。

§3 基本計画

1. 人口計画

1) 阪神圏における人口

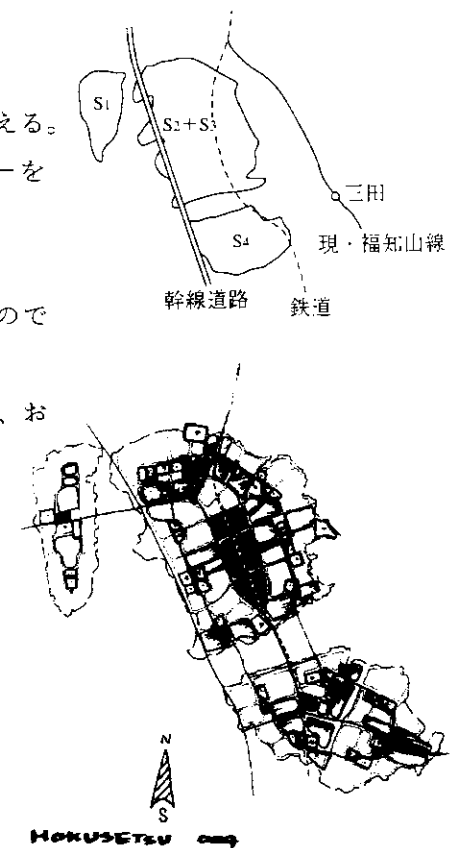
イ) 阪神圏における人口の動態

阪神圏における昭和25年以來の国勢調査の人口をみると、ほぼ直線的な増加を示しており、昭和25年を100とした指数でみると、大阪府は昭和30、35、40各年度がそれぞれ120、143、173と増加しており、神戸市は増加率が少し低く、121、137、150となっており、神戸周辺都市で兵庫県内の人口は112、127、152と神戸市に比べ周辺都市の方が増加傾向が35年から40年にかけて大きくなっている。

(中略)

ロ) 阪神圏における人口増加の予測

厚生省人口問題研究所の推計人口及び神戸市企画局の推計人口によると、昭和60年における阪神圏の人口は144百万人余りとなり、昭和40年人口の42%増になっている。



昭和40年を100とした50年、60年の指数を見ると大阪府は125、143、神戸市は119、135、神戸周辺都市は、127、149となっており、神戸周辺都市の増加が49%と最大になっている。実数で阪神圏合計をみると40年に990.6万人であったものが、50年では245.5万人増加の1236.1万人、60年では182.5万人増加の1418.6万人で、40～60年にかけては428万人増加することになる。

ハ) 阪神地域内の人口配分

昭和41年8月の兵庫県「県勢振興計画」によると、昭和55年度の人口地域配分は

阪神臨海	48.1%
阪神近郊	9.3%
播磨地域	33.3%
その他	9.3%

としており、阪神地域内の地方開発拠点の設定として

三田周辺	15万人
明石周辺	25万人
加古川、高砂周辺	30万人
東播内陸都市連合	25万人
計	95万人

を考え、内陸部一般については軽工業の配置、特に神戸西神地区、三田地区、東播台地周辺では、工業と住宅を結合させたニュータウン建設を推し進めるとしている。

95万人の人口推定は先に用いた厚生省人口問題研究所及び神戸市企画局の推計人口の数値(兵庫県の増加人口)144万人と異なっているが、これは昭和60年の推計値であり、これを55年の95万人と比較するには値しない。50年～60年の推計値の中間をとって55年を算出してみると、人口増加が直線的であると仮定してみると、110.9万人となり、95万人とは、15.9万人の差があるが、これは95万人という数値が地方開発拠点として計画された数値であるためと考えられる。

ニ) 北神、北摂地域への人口配分

阪神地域に関する現在までの資料を整理してみると次の点があげられる。

1. 大阪に関しては30km圏内にあり、神戸に関しては20km圏内におさまっている。
2. 北摂丘陵地として標高が200m前後の山地であるが、未開発地であり、開発が可能である。
3. 水の問題及び福知山線、三田線が整備されれば住宅地としては良い場所となり得る。
4. 現在丘陵地の中の盆地には工業等の進出が目立ち、大阪、神戸を対象としたベッドタウンのみに限ることなくニュータウンとして成り立ち得る。

5. 大阪、神戸を一体として宅地化が進んでいるが、ほぼ開発が終り、もう1つの外周へ開発の手を伸ばさねばならない。

以上の事がらから北神、北摂地域の積極的開発が必要となっており、三田市を中心として北神が7.5万人、藤原、有野が5.6万人、北摂が15万人と30万都市を形成するように計画されている。

2) 北摂ニュータウンにおける人口計画

イ) 計画人口量の算定

北摂ニュータウンの計画としては、住宅市街地、工業地、研究学園、流通業務施設等で1,650ha、132,000人を想定しており、三田市の既成市街地の人口を18,000人とし、合計150,000人のニュータウンを考えている。

このうち県と公団が住宅市街地として開発計画をしているのは1,150ha、128,000人である。この人口を三田、広野を結ぶ線の裏側の丘陵地に3つのブロックにわけて造成開発するのが本計画である。

ロ) 住宅地区内の年齢構成および所得階層について

本計画区域内の住民の質を考えてみると、ニュータウンとして計画するので住民が日常の生活圏を計画区域内で完了できるということが前提となるが、大阪、神戸の母都市に対して20～30kmしかはなれていないということから、相当数が母都市に対するベッドタウン化するものと考えられる。

そこで当住宅地の域外関連人口を最大にとっても50%程度であると考え。(この数値は兵庫県北摂開発室の北摂ニュータウン基本計画作成委員会、交通部会検討資料によって判断した。)

こうしてみると、阪神地域がかなりの工業集積地であり、大阪には東京の東の中核的存在に対し、西の中核的存在であるため一般にいわれるホワイトカラー、ブルーカラーともにほとんどがこのような質になると考えられる。それも家賃、分譲価格等の関係で、母都市のすぐ近郊に住めない比較的若年の低所得の階層が入居するものと考えられる。

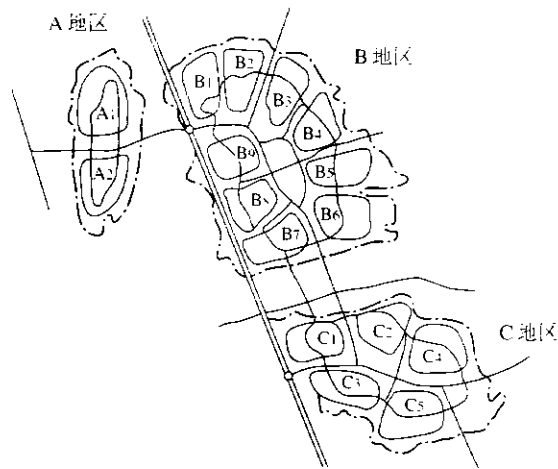
ハ) 住宅供給計画(収入、年齢と住宅の質について)

イ) 所得階層と年齢構成の試算

日本住宅公団の賃貸住宅、普通分譲住宅資料からみると、表のような関係で所得階層と年齢構成が成り立っている。ここでは先にもふれたようにだいたい30代前後の世帯がかなりの部分を占めることから階層としては、AからBにかけてのもの(5万円前後)と考えられる。

(中略)

2. 住区計画



人口配分表

住 区	住区面積 ha	宅地面積 ha	高密度地区 ha	低密度地区 ha	高密度人口 (人口密度)人	低密度人口 (人口密度)人	住区人口 (人口密度)人
A 1	89.27	55.41	—	55.41	—	8,000(145人/ha)	8,000(145人/ha)
A 2	69.33	45.95	—	45.95	—	8,000(174人/ha)	8,000(174人/ha)
小 計	158.60	101.36	—	101.36	—	16,000(157人/ha)	16,000(157人/ha)
B 1	49.48	17.61	17.61	—	7,900(450人/ha)	—	7,900(450人/ha)
B 2	43.02	30.00	11.70	18.3	5,200(444人/ha)	2,900(158人/ha)	8,100(270人/ha)
B 3	75.64	42.03	5.70	36.33	2,500(440人/ha)	5,500(151人/ha)	8,000(220人/ha)
B 4	64.30	42.85	5.40	37.45	2,400(445人/ha)	5,600(149人/ha)	8,000(187人/ha)
B 5	51.40	28.80	12.30	16.50	5,500(447人/ha)	2,500(151人/ha)	8,000(155人/ha)
B 6	51.12	30.85	11.30	19.55	5,100(451人/ha)	2,900(148人/ha)	8,000(259人/ha)
B 7	81.54	54.97	—	54.97	—	8,000(145人/ha)	8,000(145人/ha)
B 8	85.00	42.47	5.40	37.07	2,400(445人/ha)	5,600(151人/ha)	8,000(188人/ha)
B 9	67.96	44.69	4.30	40.39	1,900(442人/ha)	6,100(152人/ha)	8,000(179人/ha)
センター	33.24	—	—	—	—	—	—
小 計	602.70	334.27	73.71	260.56	32,900(446人/ha)	39,100(156人/ha)	72,000(216人/ha)
C 1	60.78	37.82	8.00	29.82	3,600(450人/ha)	4,400(147人/ha)	8,000(212人/ha)
C 2	62.36	30.61	11.30	19.31	5,100(442人/ha)	2,900(151人/ha)	8,000(261人/ha)
C 3	49.62	26.03	13.70	12.33	6,100(445人/ha)	1,900(154人/ha)	8,000(307人/ha)
C 4	53.02	30.82	11.30	19.52	5,100(442人/ha)	2,900(151人/ha)	8,000(259人/ha)
C 5	113.22	56.46	—	56.46	—	8,000(142人/ha)	8,000(142人/ha)
小 計	339.00	181.74	44.30	137.44	19,900(448人/ha)	20,100(147人/ha)	40,000(220人/ha)
総 計	1100.30	617.37	118.01	499.36	52,800(448人/ha)	75,200(151人/ha)	128,000(288人/ha)

但し、宅地面積=純宅地-区画街路+未利用地+プレイルット

1) コミュニティとは (省略)

2) 生活領域とそのパターン (省略)

3) 北摂ニュータウンにおける住区の考え方

一般にニュータウン計画においては、従来の経験的手法を前提として、コミュニテ

ィを作ること、共同利便施設の種類の種類、配置に関連して、住区規模を求め、住宅地構成の手法として用いられてきた。しかしその規模は、施設体系に重点がおかれていたため、コミュニティ(地域社会)形成という目的を見失いがちであった。特に、都市社会におけるコミュニティは、社会的コミュニティと居住地的コミュニティとに大別出来るが、社会的コミュニティは拡大の傾向にあり、居住地的コミュニティは縮少の傾向にあると言われる。

交通輸送機関の進歩は我々の都市生活圏域を拡大させ、都市生活者にとって、各種の集団(コミュニティ)に対してより多くの選択の機会を与えた。これは今までのコミュニティの概念を変えつつあるのではなかろうか。

そこには、今までの施設体系をもとにした段階的コミュニティは崩壊し、新しいコミュニティが形成されつつある。

徒歩によるコミュニティ、自動車によるコミュニティの圏域は当然異なっており、そこに住う都市生活者は、それら多様なコミュニティ集団への選択の機会を持ち、都市生活を充足していると考えられる。

コミュニティの成立は「精神的一体感を持つ地域公団」と考えれば、このような共同意識が目ばえ、地域への自治意識を持つ市民が育つためには、社会・教育等の環境に支配される問題でもあるが、ニュータウン計画において新しい地域に新しい都市を創るためには、当然目ざすべき目標の1つである。

(中略)

そこで北摂ニュータウン計画においては、居住地的コミュニティ、都市的コミュニティという見方をした。

イ) 居住地的コミュニティ

(中略)

又、施設体系から見れば、居住地的コミュニティは今までの近隣分区程度に考えられる。そこで、この居住地的コミュニティ2つで小学校区が形成出来る。この小学校区は人口約8,000人程度を目安とするが、このようなニュータウンにおいては教育水準の向上を目ざして小さい方が望ましいと考えられる。

又この小学校区2つで1中学校区を形成することになる。このように北摂ニュータウン計画におけるコミュニティは従来の1小学校1コミュニティではなく、1小学校2居住地的コミュニティで形成されている。

このような居住地的コミュニティは生活を中心として形成され、子供の教育を通して長い年月と共につちかわれて行くものである。

ロ) 新しいコミュニティセンターの提案

しかし、新しい土地に都市を創る場合、周辺の各所から集まる住民にとって、何ら

共通の背中を持って、都市生活そのものが不満になりがちである。又入居当時は一般に年齢が若く、子供も少ない人が多い。この段階におけるコミュニティは決して子供の教育を中心としたものからは生まれてこない。そこで北摂ニュータウンにおいては、このような段階、又子供の居ない人々にとってのコミュニティ形成の場として「コミュニティセンター」を提案した。これはレクリエーション、スポーツを中心とした施設で構成し、地域住民共通の接触の場として解放したい。又これらの施設の運営は地域住民の自治運営とし、新しい地域共同体形成の足がかりとしたい。

- (1) 住区は原則として、幹線街路又は緑地で区切り、拡がりを明確にする。
- (2) 住区の住宅配置はコミュニティとしてのまとまりを出すため、又住区界を明確に意識させるため、緑地・道路・高層アパート等で構成する。
- (3) 住区の動線は各住区を連絡する地区幹線を軸として、分区を明確に区分し、住区幹線で分区中心を結ぶ住区幹線から分区内の区画街路細街路、アプローチを結び、各住宅住宅群と連絡する。
- (4) 地区幹線から直接住宅へのサービスは考えない。
- (5) 住宅と分区中心、近隣中心とは歩行路及び自転車道路等で連絡する。

(中略)

参考：北摂ニュータウン関連研究調査一覧表 昭和44年12月現在

	名称	計画機関	調査研究主体	期間	備考
開発構想 基本計画	三田地域開発調査	兵庫県	兵庫県内	38. 8	
	三田地区住宅適地開発調査	兵庫県	大阪市、都計研究室	39. 9~40. 3	
	北摂地区新住宅市街地開発計画 樹立に関する調査	兵庫県 住宅公団 建設省	宅地開発 宅地開発協会	41. 9~42. 6	
土地権利	北摂地区大規模施設整備構想樹 立調査	兵庫県	日本都市計画学会	43. 5~44. 3	
	北摂地区、地籍調査及び権利調 査	兵庫県	近畿開発(株)	44. 6~44. 8	
	北摂地区、権利調査	住宅公団	〃	44. 7~44. 12	
現形模型	北神、北摂地区現形模型 (SCALE1/25000)	住宅公団	山口工務店	43. 3~43. 4	
航空写真 モザイク 地図作成	北摂地区航空写真モザイク (SCALE1/25000)	兵庫県	アジア航測(株)	43. 2~43. 3	
	北神、北摂地区航空写真モザイ ク	住宅公団	〃	43. 3~43. 5	
	北摂地区(仮称)航空写真測量 (SCALE1/25000 1/10000)	兵庫県 住宅公団	昭和航空(株)	44. 8~44. 10	
	北神、北摂地区斜め航空写真モ ザイク	住宅公団		44. 12~	
	北摂地区1/10000地図第2原図 作成	住宅公団		44. 12~	
北摂地区1/25000地図第2原図 作成	兵庫県		44. 12~		

住宅、宅 地需要	北神、北摂地区の住宅、宅地需 要に関する調査研究	三田市	京大、巽研究室	43. 11~44. 10	
	北摂地区の調査需要に関する調 査研究	兵庫県	〃	44. 7~45. 3	
地 質	北摂地域地質概況調査	住宅公団	大阪土質試験所	44. 4~44. 8	
現況、土 地利用等	三田市基本計画策定に関する調 査研究	三田市	大阪工大都計研究室	44. 2	
	兵庫県北摂地域土地利用等現況 実態調査研究	住宅公団	三田市	44. 3~44. 10	
農 業	北摂ニュータウン開発構想に伴 う土地盤現況調査	兵庫県	三田市	44. 7~45. 1	
保 全	北摂ニュータウン周辺植生調査	兵庫県	(神戸大学)	44. 4~45. 3	
	北摂開発地域埋蔵文化財分布現 況調査	兵庫県	三田市	44. 12~45. 3	
工 業	北摂工業団地適正業種選択調査	兵庫県	日本工業立地センター	44. 7~45. 3	
水	武庫川及び関連河川縦横断測量	住宅公団	日本建設コンサル タント	43. 3~44. 3	
	北神北摂地域開発にともなう武 庫川水計画のための基礎調査研 究	兵庫県 住宅公団	近畿建設協会	43. 10~44. 3	
	北摂北神広域水道調査(上水道 施設計画調査)	兵庫県	日本水道コンサル タント	43. 10~44. 3	
	北摂工業用水道基礎計画調査	兵庫県	兵庫県内	44. 10	
	武庫川水利検討調査	兵庫県 住宅公団		44. 10~45. 3	
交 通	北神北摂地区交通計画調査	兵庫県 神戸市	新日本技術コンサル タント	44. 11~45. 2	
	北摂ニュータウン及び周辺地域 の交通量解析調査	兵庫県	中央復建コンサル タント	44. 12	